

## はくさん

第41巻 第3号

## 目次

- P 1  
手取峡谷と甌穴
- P 2  
白山麓のアサギマ  
ダラ 平松 新一
- P 9  
おいでよ!  
中宮展示館秋祭り
- P12  
リニューアル!市ノ  
瀬ビジターセンター  
の展示
- P14  
ブナオ山観察舎だ  
より
- P16  
センターの動き



## 手取峡谷と甌穴

手取川中流域で深く浸食された断崖絶壁の景勝地を、古くから“手取峡谷”と呼び親しんできました。位置がきちんと決められているわけではありませんが、普通は白山市木滑の集落あたりから下流の下吉野の集落あたりまでの約8kmの間をさします。峡谷の高さは最も高いところで30m近くあります。この写真は、手取峡谷の真ん中あたりにある不老橋から上流側を撮ったもので、切り立った断崖が続いています。写真のほぼ中央左側の河床にみえる小さな丸い穴は、おうけつ甌穴と呼ばれているものです。甌穴は岩盤にできた小さなくぼみが、流水の渦とそこに取り込まれた小石によって選択的に深く浸食されてできたもので、一般に急流の河川で浸食作用が活発なところに行けるといわれています。手前の河川中央にみられるように、甌穴の転石が転がっていることもあります。また、甌穴は現在の河床だけではなく、かつての河床で形成されたものが地表に残っていることがあります。白山市釜清水の河岸段丘上にある弘法池がかつての河床にあった甌穴と考えられ、直径が約1m、深さが約2mあり、地下水が湧き出していて、名水百選の一つに選ばれています。(東野外志男・日比野剛)

# 白山麓のアサギマダラ

平松 新一（白山自然保護センター）

夏の白山で、写真1のようなチョウを見たことはありませんか。これは、アサギマダラというチョウです。大きさはアゲハチョウくらいで、翅は淡い水色（浅葱色）に褐色の縁のある美しいチョウです。体には、名前の通り白と黒のまだら模様があり、オスの後翅（後ろばね）には黒い斑紋があります。

アサギマダラは、タテハチョウ科のマダラチョウ亜科に属しています。日本では、北海道から沖縄にかけての広い地域で見ることができます。石川県で見られるマダラチョウの仲間はアサギマダラだけです。

このチョウの大きな特徴は、「渡りをする」ことです。秋には北から南の方へ、春には南から北の方へと渡っていくのです。白山麓で秋に見られるアサギマダラも四国や九州、沖縄まで移動することが分かっています。中には1,000kmを超えて旅をする個体もいます。

ところが、アサギマダラが渡りをするのは、最近まで分かっていませんでした。その証拠に、原色日本昆虫生態図鑑（1972年保育社発行）のアサギマダラの周年経過の項には、次のように記載されています。

“九州以北では各齢の幼虫で暖かい日には摂食しながら越冬、南西諸島では、冬でも成虫がみられ、特定の越冬態はない。第1化成虫（4～6月）は一般に低地での個体数が多いが、第2化と思われる個体は、7～8月を中心に山地・高地に多数あられ、第3化あるいは第4化成虫は再び低地でみられるようになる。沖縄本島では秋・冬・春に多く、夏には姿を消すという。このように低地で高温期に個体数が激減する現象が、低地⇔山地の移動によるものか、有力な天敵によるものかは今後の興味深い課題である。”

この解説には、アサギマダラが幼虫で冬越しすること、夏には低地で激減し高地で多くなることが記されています。しかし、低地から山地への移動は考えられていても、アサギマダラが渡りをするということについては全く触れられていません。また、沖縄本島で夏に姿を消すとは記されていても、その理由が渡りをするためとは書かれてはいません。つまり、この時点ではアサギマダラが長い距離を移動することが分かっていたのです。もちろん、私たちがアサギマダラの飛んでいる後を追いかけて行って、その移動の様子を詳しく観察することなんかできません。では、なぜそんなに長い距離を移動することが分かってきたのでしょうか。



写真1 アサギマダラ（タテハチョウ科）

白山では、7～8月に多く、標高2,000m以上の高いところでも見られます。

## マーキング調査

アサギマダラが渡りをする事が分かってきたのは、1980年代初め、マーキング調査という方法によるものでした。マーキング調査というのは、アサギマダラを捕獲し、その翅にサインペンで日付、場所、名前などを入れて再び放し、どこで再捕獲されるかを調べる方法です。再捕獲されたアサギマダラは、インターネットにあるサイトに連絡すると、ホームページを通じて公開されます。その情報を見ることで、自分のマーキングしたアサギマダラがどこで再捕獲されたかが分かるようになっていきます。ただ、そのためには、捕獲してマーキングする人と、マーキングしたアサギマダラを遠く離れた場所で再び捕まえる人が必要です。さらに、たくさんのアサギマダラにマーキングしなければ、再捕獲される数は少なくなるので、十分な成果は得られません。1980年から行われたこの調査は、1981年に3例の再捕獲があり、その後徐々に調査者が増え、現在では多くの人のマーキングと再捕獲により毎年数百頭以上の移動データが得られるようになりました。国内のこれまでで最も長い移動は、山形県蔵王スキー場から与那国島までの2,250kmです。さらに、近年は国内だけでなく、台湾や中国への移動も確認されています。1頭のチョウが海を越えて2,000km以上も飛んでいくなつて、信じられませんよね。

表1 2013年に白山麓でマーキングしたアサギマダラの再捕獲の記録

No.	マーキング日	マーキングした場所	マーキング者	再捕獲日	都道府県	市町村	再捕獲者	移動距離	移動日数
1	9月11日	白山市荒谷	中村 明男	10月18日	徳島県	阿南市	井出 達海	326km	37日
2	9月11日	白山市女原	中村 明男	10月20日	福岡県	福津市	佐伯 美保	628km	39日
3	9月13日	白山市荒谷	平松 新一	9月29日	京都府	京都市	金田 忍	164km	16日
4	9月13日	白山市荒谷	平松 新一	10月22日	大分県	日出町	菅 邦子	552km	39日
5	9月14日	白山市荒谷	平松 新一	10月28日	大分県	姫島村	中城 信三郎	536km	44日
6	9月14日	白山市荒谷	中村 明男	11月10日	高知県	大月町	本山 八司	535km	57日
7	9月14日	白山市荒谷	平松 新一	11月16日	鹿児島県	喜界島町	尾張 勝也	1,080km	63日
8	9月15日	白山市中宮	尾張 勝也	10月22日	福岡県	香春町	田中 邦子	592km	43日
9	9月17日	白山市瀬戸	桑山 尚美	10月18日	山口県	下関市	福村 拓己	572km	31日
10	9月18日	白山市下吉野	益山 雅子	10月10日	京都府	京都市	三橋一史	172km	22日
11	9月21日	白山市瀬戸	高木 菜々	10月12日	大分県	大分市	みいちゃん	549km	21日
12	9月21日	白山市尾添	大槻 信子	10月27日	高知県	香南市	荒川 良	405km	36日
13	9月22日	白山市中宮	西村 武資	9月24日	石川県	加賀市	南出 洋	33km	2日
14	9月22日	白山市中宮	西村 武資	9月24日	石川県	加賀市	南出 洋	33km	2日
15	9月22日	白山市女原	中村 和国	10月14日	愛知県	岡崎市	松下 眞司	164km	22日
16	9月22日	白山市女原	里見 実	10月18日	山口県	下関市	三好 信子	574km	26日
17	9月22日	白山市中宮	桑山 尚美	10月18日	大分県	姫島村	中城 信三郎	538km	26日
18	9月22日	白山市中宮	桑山 尚美	11月6日	高知県	大月町	藤野 適宏	538km	45日
19	9月23日	白山市中宮	通次 みき	9月28日	長野県	大町市	増沢 敏弘	109km	5日
20	9月23日	白山市中宮	三谷まなみ	11月21日	鹿児島県	屋久町	久保田義則	879km	59日
21	9月25日	白山市中宮	尾張 勝也	10月21日	大分県	佐賀関町	淵野 純生	552km	26日
22	9月25日	白山市中宮	尾張 勝也	10月28日	鹿児島県	奄美市	宮山 修	1,106km	33日
23	9月25日	白山市中宮	尾張 勝也	11月19日	沖縄県	与那国町	松本	1,857km	55日
24	9月27日	白山市下吉野	益山 雅子	10月4日	愛知県	尾張旭市	土屋 千寿子	131km	7日
25	9月27日	白山市下吉野	益山 雅子	10月12日	滋賀県	大津市	吉本 佐代子	147km	15日
26	9月27日	白山市尾添	大槻 信子	10月21日	高知県	香美市	山崎 三郎	399km	24日
27	9月27日	白山市女原	平松 新一	10月27日	高知県	大月町	本山 八司	535km	30日
28	9月27日	白山市尾添	大槻 信子	11月10日	高知県	大月町	本山 八司	538km	44日
29	9月28日	白山市女原	里見 実	10月22日	高知県	香美市	野島 博子	396km	24日
30	9月28日	白山市尾添	大槻 信子	12月3日	鹿児島県	喜界島町	福島 誠	1,087km	66日
31	9月29日	白山市下吉野	益山 紗智	10月8日	京都府	京都市	三橋一史	172km	9日
32	9月30日	白山市瀬戸	中村 明男	10月28日	山口県	下関市	福村 拓己	572km	28日
33	10月1日	白山市女原	林 典子	10月30日	大分県	姫島村	中城 信三郎	535km	29日

## 白山麓でのマーキング調査

白山麓でマーキングが始まったのは2005年からです。中村明男氏が荒谷地区にある林道に咲いていたヨツバヒヨドリに多くのアサギマダラが集まっているのを見つけ、その場所でマーキングを行ったのが最初でした。私も中村氏から話を聞き、その年の9月にその場所でマーキングを行いました。その結果、私のマーキングした個体は三重県で、別の方がマーキングした個体が鹿児島県の喜界島で再捕獲され、これが白山麓での初めての移動記録となりました。それ以降、白山麓でのマーキングは継続されており、標識者、マーキング数とともに、再捕獲数も増えています。

今年は表1にあるように、33頭のアサギマダラが再捕獲されました。この表を見ると、白山麓でマーキングされたアサギマダラは、ほとんどが西から南の方角へ移動していることが分かります。ただ、その時の気流の影響なのか、中には少し寄り道して、石川県より東の長野県大町市で再捕獲された個体もいます。また、遠いところまで飛んで行った個体ほど、再捕獲まで長い日数がかかっています。

これらのうち、最も遠くでの再捕獲は、尾張勝也氏がマーキングした個体で、なんと日本の西端、沖縄県与那国島まで飛んでいきました。その距離は、実に1,857kmです。この距離を再捕獲されるまでの日数55日で割ると、1日当たり平均約34kmを移動したことになります。また、私が9月14日にマーキングした個体が、11月16日に鹿児島県喜界島で再捕獲されました。この個体は再捕獲されるまで実に63日間もかかっていました。見方を変えれば、このアサギマダラは成虫になって2か月以上も生きていたことになります。ちなみに、この個体は喜界島を訪れた前出の尾張勝也氏が再捕獲したものでした。

さらに、表に記してはいませんが、白山麓内での移動も確認されています。9月25日に女原でマーキングした個体が同日に中宮で再捕獲され、逆に中宮でマーキングした個体が同日に女原で再捕獲されました。このほかに、同じ個体は何日も続けて同じ場所で再捕獲されることもあります。マーキング後その場所からいなくなる個体がほとんどなのですが、このように同じ場所に滞在する個体もいて、アサギマダラの行動パターンはまだまだ分からないことがたくさんあります。

白山麓のアサギマダラが別の場所で再捕獲されるだけでなく、白山麓以外の場所でマーキングされたアサギマダラがこちらにやって来ることもあります。2013年は表2に示すように、10



写真2 ペットボトルについた水滴を吸うアサギマダラ  
白山に登るとこのような光景に出会うこともある。



写真3 喜界島で再捕獲されたアサギマダラ  
9月14日に白山麓でマーキングされ、11月16日に再捕獲された。

表2 2013年に白山麓で再捕獲されたアサギマダラの記録

No.	マーキング日	都道府県	市町村	マーキング者	再捕獲日	再捕獲場所	再捕獲者	移動距離	移動日数
1	8月11日	福島県	二本松市	小柴 治紀	9月30日	白山市中宮	尾張 勝也	354km	50日
2	8月13日	群馬県	片品村	長谷川 順一	9月28日	白山市女原	中村 明男	258km	46日
3	8月15日	福島県	北塩原村	遠藤 栞	9月21日	白山市女原	西村 武資	348km	37日
4	8月15日	山梨県	鳴沢村	杉本 洋夫	9月21日	白山市中宮	西村 武資	204km	44日
5	8月16日	長野県	上田市	増沢 敏弘	9月13日	白山市荒谷	平松 新一	124km	28日
6	8月27日	福島県	北塩原村	栗田 昌裕	9月22日	白山市女原	中村 明男	348km	26日
7	9月14日	石川県	宝達志水町	堀 孝治	9月21日	白山市女原	益山 雅子	50km	7日
8	9月19日	長野県	大町市	増沢 敏弘	9月28日	白山市瀬戸	中村 明男	113km	9日
9	9月22日	石川県	宝達志水町	堀 ちえこ	9月30日	白山市女原	林 典子	58km	8日
10	9月25日	石川県	宝達志水町	遠田 勝良	9月30日	白山市中宮	尾張 勝也	56km	5日

頭が白山麓で再捕獲されました。この表から、白山麓で再捕獲されたアサギマダラは、北あるいは東方向から飛んで来ていることがわかります。これらのアサギマダラは白山麓では越冬できないので、きっと南へ渡って行く途中に白山麓を中継地として訪れたのでしょう。

### マーキング調査とアサギマダラの1年

マーキング調査によって、アサギマダラの移動が明らかになると同時に、アサギマダラが1年を通してどのように生活しているのかも少しずつ分かってきました。これまでに分かってきたことをまとめると、次のようになります。

- ① 関東地方南部から南の地域で越冬する。冬越しの形態は、南西諸島では卵から成虫まで様々である。
- ② 春に羽化した成虫は北上し、産卵する。
- ③ そこで育った幼虫は夏に羽化する。
- ④ 秋に日本列島を南下し、①の地域で産卵する。

ただし、夏に羽化した成虫は、さらに北上または高地に移動して産卵し、そこでさらに成虫が羽化する可能性もあるようです。夏に産卵する場所によっても幼虫の育ちやその後の生活史が変わる可能性もあり、アサギマダラの生活すべてが分かったわけではありません。

では、石川県でのアサギマダラの生活はどうなっているのでしょうか。石川県には、5月下旬から6月にかけて、南からアサギマダラが渡ってきます。海岸沿いでは、その時期にスナビキ



写真4 アサギマダラの幼虫



写真5 フジバカマの花

ソウという植物を訪れるアサギマダラを見ることができます。石川県にやって来たこれらのチョウは、山地にあるイケマやオオカモメヅルなどの植物に産卵します。幼虫はこれらの葉を食べて育ち（写真4）、7月前後には羽化します。羽化したチョウは白山などの涼しい場所へ移動するようで、8月には白山の登山道や室堂などで優雅に飛んでいる姿をよく見かけます。8月下旬になるとこれらのチョウは山を下り始め、特にオスは山麓のヨツバヒヨドリやサワヒヨドリ、フジバカマの花をよく訪れ、9月下旬にはこれらの花の周りにたくさんのアサギマダラを見かけることができます。そして、9月下旬から10月初め頃に南の方へ向かって飛び立っていきます。

### 白山麓でのマーキングのすすめ

ここまでお話ししたように、秋の白山麓にはたくさんのアサギマダラがやってきます。アサギマダラにマーキングするために白山麓を訪れる人も増えてきました。マーキングする人が多いほど、再捕獲される個体も増え、より詳しい渡りのルートや生活史が明らかになります。そこで、ここではアサギマダラのマーキングの方法についてお話しします。マーキング自体はそんな難しいものではないので、皆さんもぜひマーキングに挑戦して、アサギマダラの渡りを調べましょう。

#### ① アサギマダラのいる場所を知る

アサギマダラにマーキングすると言っても、どこにアサギマダラがいるのか見当もつきませんよね。ですが、白山麓にはアサギマダラの集まる場所がいくつかあります。以下がその代表的な場所です(図1)。

- a) ハーブの里・響きの森ミントレイノ
- b) かんぼの郷白山尾口
- c) 白山ろく少年自然の家
- d) 白嶺小中学校

これらすべての場所には中村明男氏が植栽したフジバカマが植えられており、9月中旬から10月初めにかけて、この花にアサギマダラが訪れます。このうち、ミントレイノは最も植栽数が多く、ア

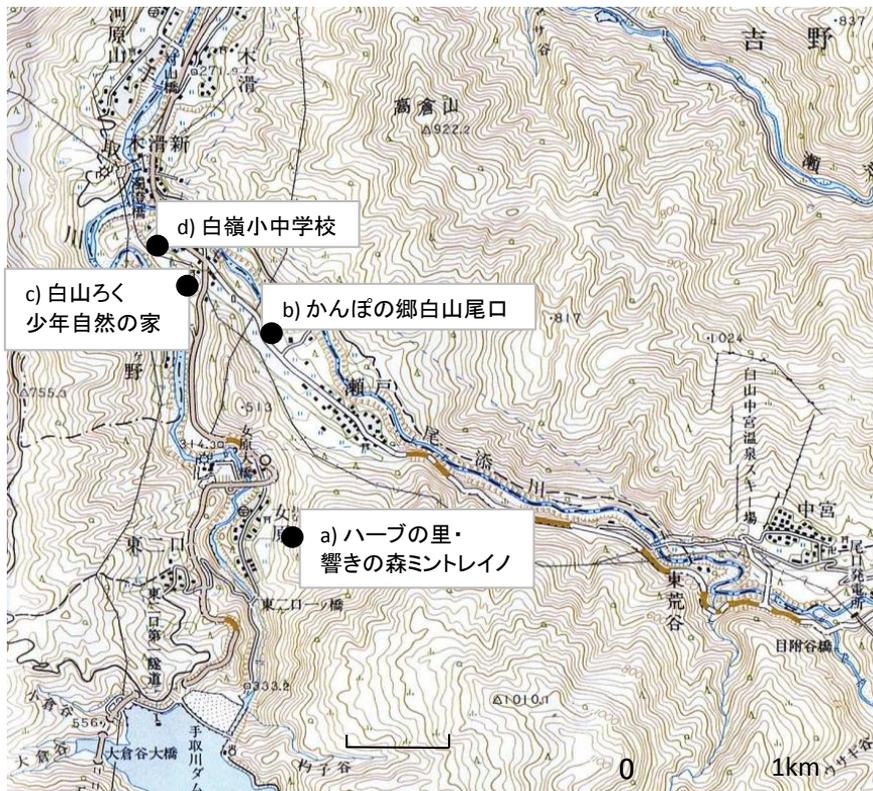


図1 白山麓でアサギマダラが集まる代表的な場所  
基図は国土地理院発行5万分の1地形図「白峰」を使用。

サギマダラ飛来数も多いです。どの施設も敷地内にフジバカマがあるので、施設の許可を得てマーキングしましょう。

### ② アサギマダラを捕まえる準備をする

アサギマダラの捕獲、マーキングのために次のものを用意しておきましょう。

- ・ 捕虫網：どんなものでもかまいませんが、口径が大きいものほど捕獲しやすいです。
- ・ 白タオル：アサギマダラを効率的に捕まえることができる秘密のグッズです。
- ・ フェルトペン：マーキングするために必要です。油性・細字のものを用意しましょう。
- ・ 記録用紙・筆記用具：マーキングしたアサギマダラを記録しておきます。
- ・ カメラ：再捕獲した時に、写真を撮ります。(マーキングだけなら必要ありません)



写真8 タオルを回してアサギマダラを呼び高いところを飛んでいるアサギマダラでも、これを見て急降下してくることがある。

これだけあれば準備完了です。さあ、次はいよいよ捕獲、そしてマーキングです。

### ③ アサギマダラを捕まえる

花の蜜を吸っているアサギマダラは比較的落ち着いており、そっと近づけば簡単に捕まえることができます。ただ、飛んでいるアサギマダラを捕まえるのは容易なことではありません。そんな時に使うのが白タオルです。アサギマダラが上空を飛んでいるとき、そのアサギマダラに向かって片方を縛ったタオルを写真8のように旋回させます。すると、不思議なことにアサギマダラがタオルに近づいて来るのです。片手でタオルを回し、もう片手に網を持って近づいてきたアサギマダラを捕らえます。

白山麓では、アサギマダラは8月末から10月初めまでの間に見られます。その時期のなかでも、9月中旬か



写真9 マーキングしている様子

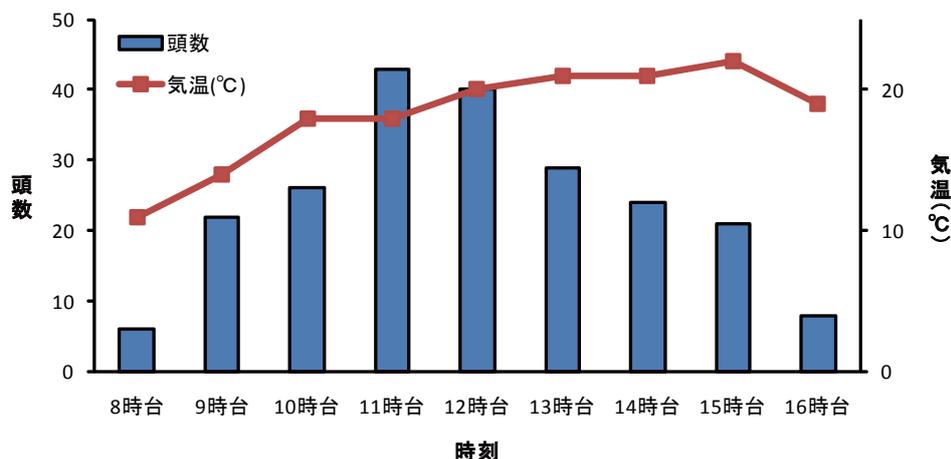


図2 アサギマダラ採集数(2013年9月27日)



写真 10 マーキングしたアサギマダラ  
翅の青い部分に、日付、採集地、自分の記号  
と通算番号を記す。

ら 10 月初めまでの間に多くのアサギマダラが①に記した場所を訪れています。ですから、これらの時期を中心にマーキングに挑戦するといいいでしょう。

また、アサギマダラの来る時間帯について、今年 9 月 27 日に調査した結果を図 2 にまとめました。図のように、この日は正午前後が最も採集数が多かったです。この日は 1 日中ほぼ晴れていて、風がほとんどなく、気温も 20℃前後で、アサギマダラが飛来するのに適した条件がそろっていました。このような日だとちょうどお昼前後にアサギマダラが多くなるようです。ただし、天候、気温、風などの条件によっても飛来数は大きく変わるので、その日の気象情報をあらかじめ調べておくといいいでしょう。

#### ④ マーキングする

捕まえたアサギマダラの翅（はね）に、フェルトペンでマーキングします。アサギマダラの翅には鱗粉りんぷんがないので、文字を書くことができます。

記入することは次の通りです。

- ・ 採集月日：最終した日が 9 月 24 日なら 9.24 または 9/24 のように記入します。
- ・ 採集場所：白山麓なら「白山」などと記します。
- ・ 採集者サインと採集番号：自分のマーキングしたものと分かるように名前や記号を記します。また、自分の捕まえた通算番号を記入します。

マーキングしたら、翅に書いた事項を記録用紙に記入し、白山自然保護センターに連絡してください。こちらで情報を控えておき、再捕獲された場合、マーキングした方に連絡します。

これで、みなさんもアサギマダラのマーキング方法が分かりましたね。ぜひ秋には白山麓でマーキングに挑戦して、一緒にアサギマダラの渡りのルートを探しましょう。



フジバカマの花の蜜を  
吸うアサギマダラ



写真 11 白嶺小中  
学校のフジバカマ  
フジバカマの周りを  
何頭ものアサギマ  
ダラが飛んでいる。



# おいでよ！中宮展示館秋まつり

平成25年10月19日(土)・20日(日)

今回が初めてとなる「おいでよ！中宮展示館秋まつり」が10月19日・20日に開催されました。自然素材を使ったクラフトや木の実の試食、秋の味覚コーナー、ねんぐあじ作り・かご作りなどを通して、2日間で1,000人を超える参加者が、中宮の自然や文化にふれ、白山麓の秋を楽しみました。

## 秋を楽しもう



### 手作りコーナー

世界にひとつだけの  
素敵な作品  
ができました。  
ありがとうございます。

思はず夢中になっ  
て、とても良い物か  
ぞうし  
山の恵みに  
感謝です！！

木の实や木の枝を使ってアクセサリーを作りました。



こんな  
みっ  
か

### ゲームコーナー



・思はず  
夢中になっ  
て、とても  
良い物か  
ぞうし  
山の恵みに  
感謝です！！



くまの毛は  
やはりゴワゴワ  
している。

クイズやハテナボックス、輪投げなどで白山の自然を学びました。

**秋の試食コーナー 味見採点**

性別: 男 ( ) 女 ( )      年齢 44

試食した結果を10点満点で採点して下さい。

キハダ茶	3	点
ササ茶	10	点
クワ茶	7	点
クルミの実	5	点
ブナの実	2	点
マテバシイの実	10	点
クマ肉のくん製	10	点
スタンジの実	9	点
		点

一言感想

初めて食べた実ばかりで  
楽しくおいしく味わいました。  
木の油もおいしかったです

木の実の試食や野草茶の試飲をしました。

**試食コーナー**



**中宮の文化を知ろう**



**ねんぐあじ作り**

クルミのはいった地元中宮の郷土菓子「ねんぐあじ」を、11月19日に伝承者の不破キタさんの指導を受け作りました。

**つるでかご作り**



11月20日には、アケビのつるを使って、それぞれ個性豊かなカゴを作りました。



来場者も加わって地元中宮に伝わる「へとつき音頭」が披露されました。「へとつき」とは、家を建てる際の地固めのことで、その家の繁栄と安定を念じて住民が繰り出で行いました。

## へとつき音頭



## 中宮の自然を知ろう



自然ガイドボランティアと蛇谷観察路を歩き、中宮の自然を学び、楽しみました。

## 秋の味覚コーナー



地域の団体等が地元の食材や特産品を販売しました。

おいでよ！中宮展示館秋祭り実行委員会  
 石川県、一里野温泉おかみの会、ウェルカム白山、環境省、環白山保護利用管理協会、中宮温泉旅館組合、中宮民謡同好会、白山一里野温泉観光協会、白山自然ガイドボランティア友の会、白山手取川ジオパーク推進協議会、白山吉野谷観光協会、ふもと会（五十音順）

# リニューアル！市ノ瀬ビジターセンターの展示

市ノ瀬ビジターセンターは、展示内容を一新する改修工事を平成24年度に行い、白山の夏山開きに合わせて、平成25年6月30日にリニューアルオープン式典を行いました。ここではリニューアルされた市ノ瀬ビジターセンターの展示についてご紹介します。

## 2F

市ノ瀬は白山登山の基地であると同時に、周辺の自然を楽しむことができる観察路が整備されています。ここでは白山に登る方のための登山道や施設の状況をはじめ、白山国立公園の概要や利用する上で守っていただきたいマナー、今、白山山頂及び市ノ瀬周辺で観察できる動植物などの情報を発信しています。



## 白山登山情報

国土交通省のライブカメラを利用し、リアルタイムで白山の映像が見られるようにしたほか、白山室堂の気温や視界、天気予報などの気象情報（夏山のみ）、施設や登山道の状況、クロユリなど高山植物の開花に関する情報を提供しています。

## 白山国立公園まるごとマップ

宇宙から見た白山地域を床面タイルにし、白山国立公園全体が見渡せるようにしてあります。また、頭上には白山の主峰御前峰頂上（標高2,702m）からぐるりと360°見回した景色と各地から仰ぎ見た白山の景色を展示しています。



## おもしろ体験コーナー

市ノ瀬周辺で拾ったいろいろなものをレンズで拡大して見たり、それらを使って遊ぶことができるコーナーです。

また、情報検索や映像コーナーでは、これまで白山自然保護センターが制作してきた白山の動植物や地質、山麓の文化についての映像を見ることができます。



## 1F

白山麓には西日本最大とも言われる広大なブナ林が広がっています。この白山の自然を代表するブナ林について、その役割や生物多様性について解説しています。

なかでも目を引くのが「こぶブナ」の実物標本。「こぶブナ」は白山でも有数の大きさで、チブリ尾根を登る登山者を迎えていましたが、平成20年に枯死していることが分かったため、名の由来である地面近くのコブの部分を取り出して、展示したものです。また、「こぶブナ」は2Fの薪ストーブの前でテーブルとしても利用しています。



ブナ林についての解説パネルとチブリ尾根の主「こぶブナ」の実物模型

## さわってみよう！白山の生き物

普段はなかなかさわることができない野生動物の毛並み。動物によって様々な毛並みを実際にさわって、その違いを体感できます。また、階段にはこれらの動物の足跡もつけてあり、その形や大きさの違いが一目でわかります。



# ブナオ山観察舎だより



ブナオ山観察舎のキャラクター・かもちゃん

**平成 25 年 11 月 20 日オープン**

ブナオ山観察舎（白山市一里野）は今シーズンも 11 月 20 日に開館し、雪深い奥山に生きる野生動物が来館者の目を引き付けています。特別天然記念物のニホンカモシカをはじめ、ニホンザルの群れやイノシシ、リスなどが観察され、冬眠を前に腹ごしらえをするツキノワグマも見られました。上空には絶滅危惧種で石川県の鳥であるイヌワシが 2m もある翼を広げ悠々と旋回し、翼や尾のまだら模様が特徴のクマタカも見られました。

館内には大型双眼鏡や望遠鏡が備え付けてあり、これらの動物たちの暮らしぶりをつぶさに観察できます。動物の骨格標本や剥製などが展示してあるほか、12 月中は子どもたち向けにクリスマスの飾り付けもしてみました。土日、祝日にはカンジキを履いて近くの雪の森を歩くミニ観察会も実施中です。



ブナオ山観察舎。背後はブナオ山 2013.11.29



観察舎から野生動物を観察する来館者

クリスマスの飾り付け



雪の積もったブナオ山の斜面に現れたカモシカの親子。右が子ども 2013.11.28



ブナオ山の上を飛ぶイヌワシのつがい 2013.12.8



観察舎前でクスの実を食べるニホンザル 2013.12.11



ブナオ山の中腹に現れた冬眠前のクマ 2013.12.11

## 白山まるごと体験教室「野生動物の足跡を探そう」

平成 25 年 11 月 24 日、ブナオ山観察舎とその周辺で家族連れら 21 名が参加して行われました。観察舎で動物の専門家から白山に棲む野生動物についてレクチャーを受けた後、近くの林道や登山道を歩き、生きものの痕跡を探しました。ツキノワグマがミズキの木に登って実を食べた時にできたクマ棚やニホンザル、テンなどの糞が見つかり、普段は見逃しがちな動物のサインが意外に多いことに驚きながら専門家の解説に耳を傾けていました。



クマ棚を観察する参加者



クマに皮を剥がれた杉



動物の糞を観察



キハダに作られたクマ棚



森に残されたタヌキの糞

## ブナオ山観察舎ミニ観察会のお知らせ

観察舎周辺で行う手軽なカンジキ体験です。雪の上を散歩し、野生動物や、その足跡、雪の造形など、冬の自然を観察しましょう。斜面での尻すべりも楽しいですよ。

日時：12月～4月の土・日・祝（積雪時のみ）

10時から15時の間で1-2時間程度

**参加無料・事前申し込み不要**

※ 10名以上の団体の場合は、事前にブナオ山観察舎(076-256-7250)へご連絡ください。



カンジキを履いて、雪の上を歩く

## センターの動き（平成25年10月1日～12月27日）

- |   |  |
|---|--|
| 10.9 白山ユネスコエコパーク推進協議会設立準備会<br>第1回 (白山市) | 11.24 白山まるごと体験教室「野生動物の足跡を探そう」<br>(ブナオ山観察舎) |
| 10.19～20 おいでよ！中宮展示館秋祭り (中宮展示館)          | 11.25 白山ユネスコエコパーク推進協議会設立準備会<br>第2回 (白山市)   |
| 10.23 オキナグサ現地検討会 (白山市)                  | 11.26 白山火山防災協議会 (高山市)                      |
| 10.31 JICA 里山研修 (中宮展示館)                 | 12.7 白山自然ガイドボランティア研修講座第3回<br>(金沢市)         |
| 11.6 市ノ瀬ビジターセンター冬季閉館                    | 12.24 白山ユネスコエコパーク推進協議会設立準備会<br>第3回 (白山市)   |
| 11.6～7 自然系調査研究機関連絡会議<br>(輪島市・能登町)       |  |
| 11.18 中宮展示館冬季閉館                         |  |
| 11.20 ブナオ山観察舎開館                         |  |



JICA 里山研修

里山研修として、「白山麓の自然と人との関わり」と題して講義を行いました。ネパール、インドなど6か国15名が研修を受けました。



自然系調査研究機関連絡会議

連絡会議の後、会場の「の海洋ふれあいセンター」海岸の磯を観察する参加者。



岩屋俣園地改修工事

今年行われた改修工事により、園地の入口が整備されました。そのほか、解説板などが新しくなりました。



白山の初冠雪

今冬の初冠雪を10月17日に観測したと、金沢气象台が発表しました。平年並みで、昨年より7日早い。

### たより

白山室堂と南竜山荘の宿泊施設は、10月15日をもって今年の営業を終了いたしました。他の施設も含めると、山頂部での宿泊者数の合計は25,519人で、昨年より650人増えました。白山国立公園を快適に利用していただくため、国立公園内の施設の補修や整備が、関係機関によって毎年行われています。登山道については、砂防新道入口が整備されたほか、山頂部のお池巡りコースでは解説板の一部が改修され、新たな情報も加えられました。登山拠点の市ノ瀬の岩屋俣園地では、園地の入口や解説板などが新しくなりました。また、別当出合駐車場から休憩舎までの園路も整備されました。中宮展示館では、蛇谷自然観察路のカジヤ谷の橋がかけ替えられました。来年も白山を訪れて、白山の自然を楽しんでいただきたいと思います。(東野)

### 編集・発行

はくさん 第41巻 第3号(通巻169号)

石川県白山自然保護センター

〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4

TEL.076-255-5321 FAX.076-255-5323

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/>

E-mail [hakusan@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:hakusan@pref.ishikawa.lg.jp)

発行日 2013年12月27日(年4回発行)

印刷所 前田印刷株式会社